

氏 名 山田 隆子

授与した学位 博士

専門分野の名称 博士(保健学)

学位授与番号 甲第4796号

学位授与の日付 平成25年3月25日

学位授与の要件 保健学研究科 保健学専攻

(学位規則第5条第1項該当)

学位論文題目 アルコール性肝障害入院患者が断酒を決意し断酒を継続するプロセス

論文審査委員 景山 甚郷、岡本 玲子、折山 早苗

#### 学位論文内容の要旨

本研究は、アルコール性肝障害入院患者が、断酒を決意し、断酒を継続するプロセスを明らかにし、断酒の決意と断酒の継続を可能にする看護支援について検討することである。

入院中のアルコール性肝障害患者6名を対象とし、半構造化面接を行い、M-GTAの手法で分析した結果、アルコール性肝障害入院患者が断酒を決意し断酒を継続するプロセスは、【アルコールに飲み込まれていった自分を振り返る】ことや、【多量飲酒がもたらす不利益を知る】ことが強い動機づけとなって【断酒し治療を受ける決心をする】を経て断酒し、その断酒の実績から【退院後も継続的な断酒を決意する】ことで、断酒継続の決意をより強めて、入院中の断酒を継続するプロセスであることが明らかになった。

看護師は、アルコールに飲み込まれていった自分を患者自身が振り返ること、および、多量飲酒がもたらす不利益を自覚できるように支援する必要があることが示唆された。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、アルコール依存症がないアルコール性肝障害患者に対し、断酒を継続するプロセスを明らかにし、断酒の決意と継続を可能にする看護支援について検討することを目的としている。

入院中のアルコール性肝障害患者6名を対象とし、半構造化面接を行い、M-GTAの手法で分析されている。

以下の点が評価できる研究である。

- ①アルコール性肝障害患者を対象とした研究がないこと。
- ②【アルコールに飲み込まれていった自分を振り返る】ことや、【多量飲酒がもたらす不利益を知る】こと、長期の継続飲酒がもたらす生命の脅かしが断酒を決意する強い動悸になっていたことは新知見であること。
- ③臨床現場において、断酒を指導しても患者はなかなか断酒ができないことが多いが、本研究の知見を生かした療養指導を行うことで、アルコール性肝障害患者の断酒について介入の一助となる可能性があること。

以上より本研究は博士論文として価値あるものと認める。